フィルム・インスペクション　チェックシート

年　　月　　日

I. 開始する前に

1．タイトル ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．フィルムの種類

□ シングル８　□ スーパー８　□ レギュラー８　□ １６mm　□ ９．５mm

□ カラー　□ モノクロ　□ サイレント　□ 磁気サウンド　□ 光学サウンド

□ FUJI　□ KODAK（EK）　□ その他（　　）

3．トップリーダーは足りているか　□

＊ 約 90cm 位が目安。フィルムを映写機にかけて受けのリールまで巻いた時、一巻き以上して、リーダーがアパチャーより１０～20cm 手前まである位（1 秒 18 コマの場合、約８cm で 1 秒、スタートしてシャッターを開けるまでの秒数がアパチャーまでの長さになります）。

4．フィルムの向き・巻きは合っているか　□

＊ 前回の上映が終わった後、巻き返しがされていないままの場合があります。８mm と１６mm ではリールを映写機にかける方向にした場合、フィルムは右巻き、パーフォレーションの向きが手前で、画の方向が上下逆さま、光源側からスクリーンに向かってフィルムが字の読める向きになっていれば、頭が出ている正しい巻きです。特に両目の１６mm や９．５mm の場合、パーフォレーションは左右対称についているので、裏返って巻かれていないか注意が必要です。８mm／１６mm でも裏返って尻が出ていると見かけ上は正しい巻きに見えますので、画の方向・裏返りがないかの確認を行いましょう。

II. 作業中のチェックポイント

1．目切れ（パーフォレーションの破損）はないか

□ なかった　□ あった（　　個所、　　□ 補修済）

＊ 目切れには、パーフォレーションがエッジに向かって横に切れる場合と、パーフォレーション同士が縦に連なって切れる場合とがあります。前者はその位置からフィルムが切れる恐れ、後者は上映中画が流れ、さらに傷みが拡張する恐れがあります。穴をあけられるタイプの８mm スプライサーがある場合は１６mm 用のテープで補修し、穴を開けるのが望ましいですが、８mm 用の、パーフォレーション位置に穴の開いたスプライシング・テープは、つなぐためのもので目切れ補修にはあまり適しません。この場合は、上映を前提に作業を行う場合、該当個所を切り離すことをフィルム所有者にあらかじめ了解を取る必要があります。

2．その他の傷み・汚れはどうか

カビ（□ なし　□ あり）　油の付着（□ なし　□ あり）　縦キズ（ □なし　□ あり　　）

折れ（ □なし　□ あり　個所、　　）　コマ焼け（□ なし　□ あり　個所、　　）

セメントつなぎの剥がれ（□ なし　□ あり　個所、　　□ 補修済）

3．エンドリーダーは足りているか　□　＊ 約６０cm が目安

III. フィルムクリーニングをしながら巻き返し、作業終了　□ クリーニング済